

1 第2次茶のくに観光アクションプラン策定の課題

国内外の観光動向、マーケティング調査、第1次茶のくに観光アクションプランの評価から明らかになった観光面の課題は次の通りです。

課題①

市内全域への経済効果の波及

市全体での観光消費額は増加傾向だが、旧八女市街を除く地域での観光消費額が伸びていない。観光による経済効果を上陽、星野、黒木、矢部、立花地域まで波及させる必要がある。



課題②

増加する訪日外国人の受け入れ対応

市民や事業者の受け入れ機運の醸成、交通・施設等サインの整備、キャッシュレスシステムの導入など訪日外国人増加に対応する受け入れ対応が未整備。



課題③

日常的に販売できる観光商品不足

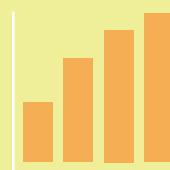
賑わいを創出し、経済効果をあげるため、年間を通して観光客が訪れる目的となる体験や食のコンテンツ造成が必要。特に、20代から30代の若い世代向けの商品が不足している。



課題④

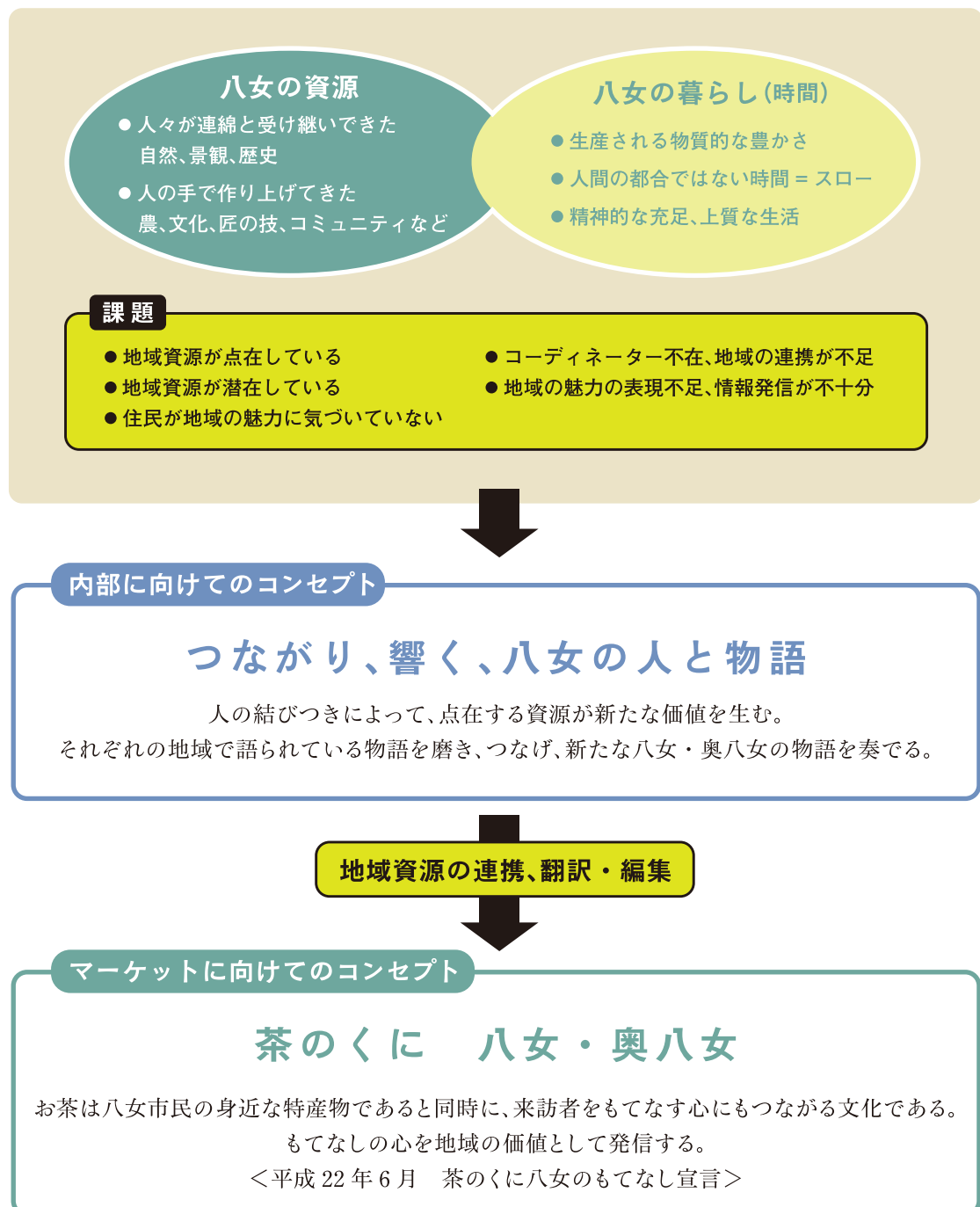
地域DMOとしての機能強化

訪日外国人の動向や国別の旅行傾向・嗜好の把握、国内客の世代別の観光商品開発、ターゲット世代を絞った効果的なプロモーションなど、マーケティング力の強化が急務。



1 観光コンセプト

第2次茶のくに観光アクションプランのコンセプトは第1次茶のくに観光アクションプランから基本的に変更せず、「茶のくに 八女・奥八女」を踏襲します。したがって、内向きの「つながり響く 八女の物語」と合わせ、「人」を基軸とした観光コンセプトを継続します。



2 観光戦略

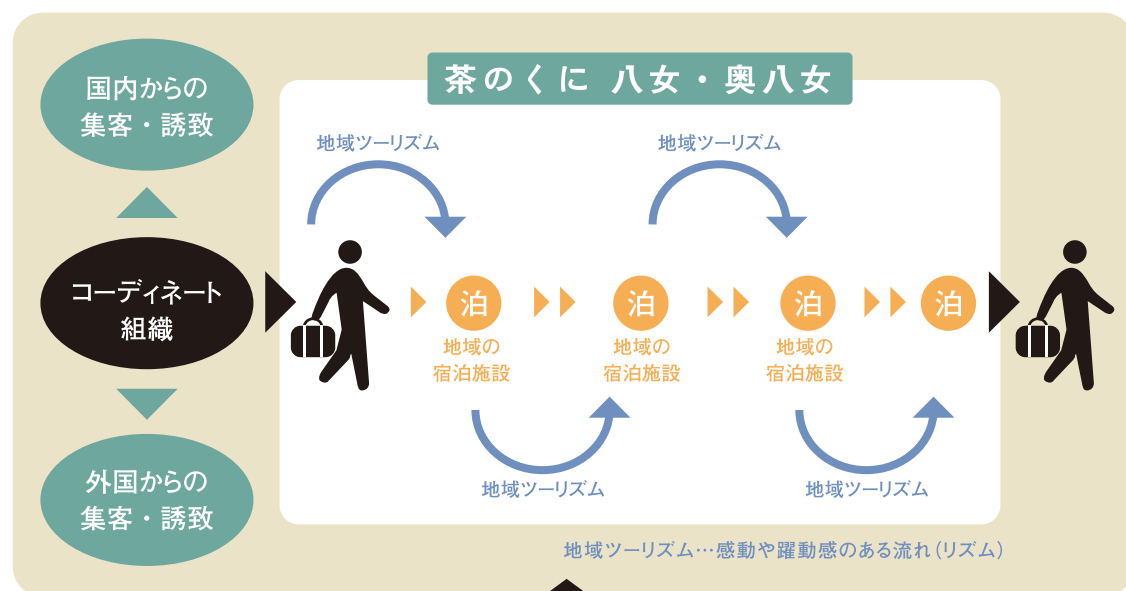
長期的には滞流型観光^(*)を観光戦略として継続しますが、本計画の3ヵ年(2019ー2021年度)では具体的な施策の方向性として

「国内外の観光客を受け入れる、観光商品+仕組み+マーケティング」

の3つのテーマでアクションプランを策定します。

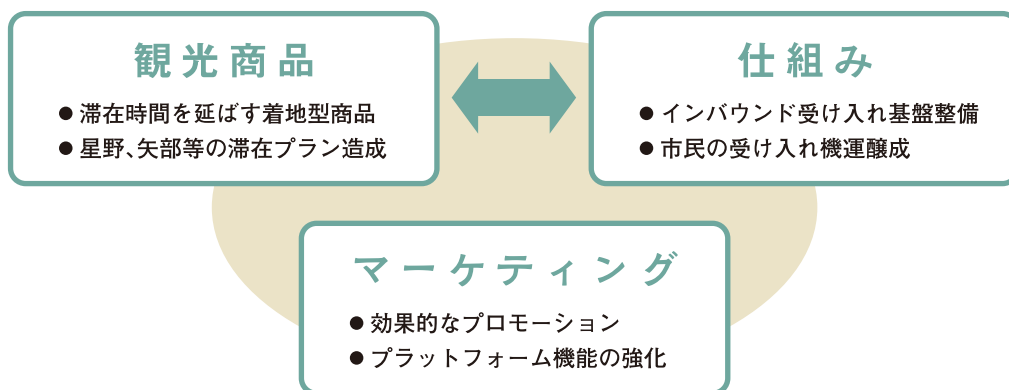
(*)滞流型観光とは、各地域の取り組みや風土を生かした滞在型観光と八女市全域を周遊する仕組みの構築を組み合わせたツーリズムを意味しています。

滞流型観光の創出＝滞在型(宿泊)＋対流型(ツーリズム)のイメージ



滞流型観光実現に向けた本アクションプランのテーマ

国内外の観光客を受け入れる



重点施策として、地域 DMO として必要なマネジメント機能、マーケティング機能の充実を図ります。